

国際交流基金助成事業報告書

大阪薬科大学 薬学部 3年次生 吉井美帆

1.はじめに

この度、国際交流基金の助成により 2015 年 3 月 1 日～3 月 21 日の 3 週間、カナダのブリティッシュコロンビア州にあるバンクーバーを訪問したことを報告いたします。今まで唯一自信のあったリスニング力が、英語を使わない環境で生活していることであまり聞きとれなくなっていたことから、少しでもリスニング力を取り戻したいと思い、留学することを決めました。また留学先をカナダのバンクーバーに選んだ理由は、他の国よりも治安が良く、なまりもほとんどなくきれいな英語を話す人が多いと聞いたためです。バンクーバーではホームステイをして現地の生活を体験しながら、EF International Language Centers という語学学校へ通っていました。

2.語学学校

語学学校では月曜日から金曜日までの間に 1 コマ 80 分の授業が 16 コマあり、事前に受けたテストにより自分のレベルにあったクラス分けがされるため、無理なく授業を受けることができました。授業内容は Speaking、Listening、Conversation Skills、Grammar、Vocabulary、Cultural Workshop など様々ありました。また、iPad やパソコンを用いて英語の文法を写真や動画を見ながら理解していくという授業や、与えられた課題に対して調べ、クラスメイトに紹介や発表するというような授業もありました。クラスメイトは 15 人前後と少人数制で、内容の濃い授業を受けることができました。時期が日本の春休みであったこともあり日本人の割合が多めではありましたが、他にもブラジル・メキシコ・韓国・ベネズエラ・チリ・スイス・フランス出身のクラスメイトがいました。クラスメイトとは、お昼休みに一緒にご飯を食べたり、放課後にバンクーバーの街中を観光したりと、私が日本に帰国してからでも連絡を取りあうほどとても仲良くなりました。授業では日本のように主に先生の話聞いているだけではなく、生徒それぞれが意見や考え、質問などをすぐに発言することができ、わからないことがあればクラス全体ですぐに問題解決をすることができたのでテンポよく授業も進み有意義な授業を受けることができました。



Fig. 1 語学学校での授業風景



Fig. 2 休み時間

2. 語学学校以外で

外国の大学はどんな感じなのだろうかと思ひ、近くの学生数約 5 万人が在籍する、カナダではとても有名な The University of British Columbia : UBC に行ってみました。大学は理系の学部が多く、敷地内には市営のバスが走っているほど広く、1 つの街のようでした。土曜日に行ったのであまり人がいないなと思っていたのですが、図書館の各階にある広い自習室には学生がたくさんおり、みな勉強をしていました。勉強していた学生にいつも土曜日に勉強しているのかとたずねると、勉強はしたくないけれど、自分の目標を達成するためと言っていました。試験前でもない休みの日に、自習室があふれかえるほど努力している人達がいたことで日本との違いを感じました。

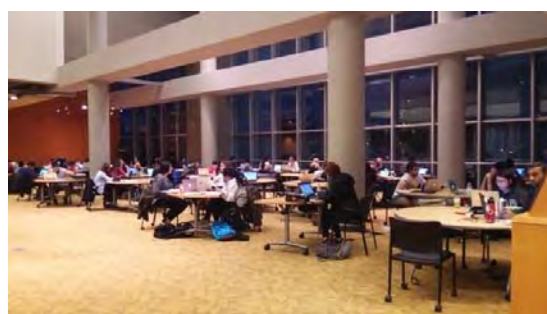


Fig. 3 UBC の自習室



Fig. 4 Conversation class

放課後は近くのカフェで行われている English Conversation class という英語を学びたい様々な国籍の人たちが集まる会に参加していました。この class では留学生やワーキングホリデー、現地で生活をしている人達が集まり好きな席に座ってお互いの話をし、英語でコミュニケーションをとっていました。ここでは学校とは違った様々な考えや文化に触れることができました。この Conversation class に参加したことが、Speaking, Listening の上達により役立ったと感じました。

街中を歩いているとカナダには薬局やドラッグストアがたくさんあり、大きめのスーパーの中には必ずといってよいほど薬局がありました。カナダのお店は日本に比べて早く閉まるというイメージがありましたが、薬局の営業時間をみるとそうではありませんでした。それだけカナダでは薬局が必要とされているので、遅くまでやっているスーパーの中にあるのではないかと思います。

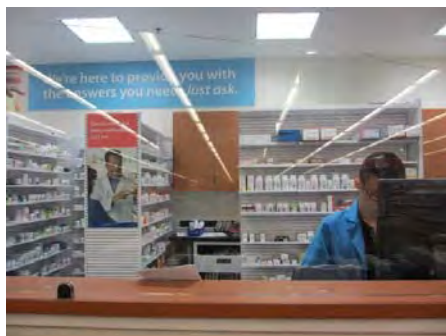


Fig. 5 スーパーにあった薬局



Fig. 6 薬局の営業時間

3. ホームステイ

ホームステイ先の家族はフィリピン人の家族でした。もともとはフィリピンに住んでいたようですがカナダへ移住してきたそうです。そのためカナダで生活するにあたって、英語を勉強することに一番苦労したそうです。その経験からわたしにどのようにして英語が上達したかを教えてください、アドバイスもしていただきました。ホス

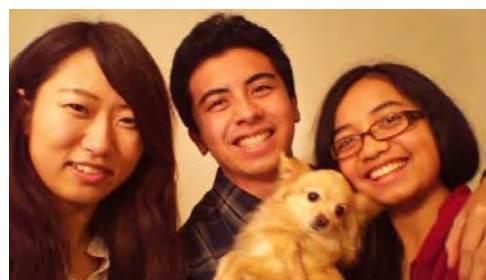


Fig. 7 ホストファミリーの子供たちと

トファミリーの子供たちはカナダで生まれ、カナダで育ったため英語がとても上手だったのですが、フィリピン語はあまり話せないそうです。このことから異なる言語は簡単には身に付かないのだと感じました。今までにたくさんの留学生を受け入れ、日本人も数人受け入れたことがあるというホストファミリーだったので、日本語や日本の食べ物、文化についてたくさん知っておられ、おいしい日本食のお店やおすすめの景色が見られる場所を紹介してくださいました。私のほかに留学生はブラジル人 1 人とタイ人 2 人で、みな同じ学校に通っていました。学校への行き帰りが同じになったときは週末の予定やカナダの国技であるアイスホッケーについて話すなど、とても仲良くなりました。

4. おわりに

カナダで過ごした 3 週間は短い期間でしたが、とても貴重な体験をすることができました。目標であったリスニング力の向上は私なりに達成できたのではないかと感じています。3 週間海外で過ごしてみて気付いたことは、私にはまだまだ **Vocabulary** が足りていないということです。話を理解することはできるのに、自分の伝えたいことを伝えるということが

出来ず苦勞しました。そのためジェスチャーや違う言い方や言い回しを使って伝えていましたが、単語を知らないがために伝わらないということで悔しい思いもしました。なので、これを今後の課題とし、自分の英語力の向上を目指したいと思いました。

さまざまな国籍の人達と毎日過ごすことで、たくさんの文化や考え方を学びました。初めはコミュニケーションをとるのに苦勞しましたが、気付けば頭の中で日本語から英語に考えて話すのではなく、とっさであっても自然と英語が話せるようになっていました。カナダの人達はとてもフレンドリーでやさしく、ゆっくり話す私の話もしっかりと聞いてくださったのでとても話しやすかったです。私のつたない英語でも通じたのがとてもうれしかったです。

1人で海外に行き、積極的に他国の人と過ごしたことで様々な人達に出会い、たくさんのことを経験することができました。言葉も簡単に通じない、初めて訪れた場所での生活を自力で乗り切れたことは、私にとって大きな自信になったと感じます。今後の学生生活や卒業後にも必ず英語は必要となってくると思います。今回の留学で学んだこと、経験したことをこれからの勉強にいかしていきたいと思います。